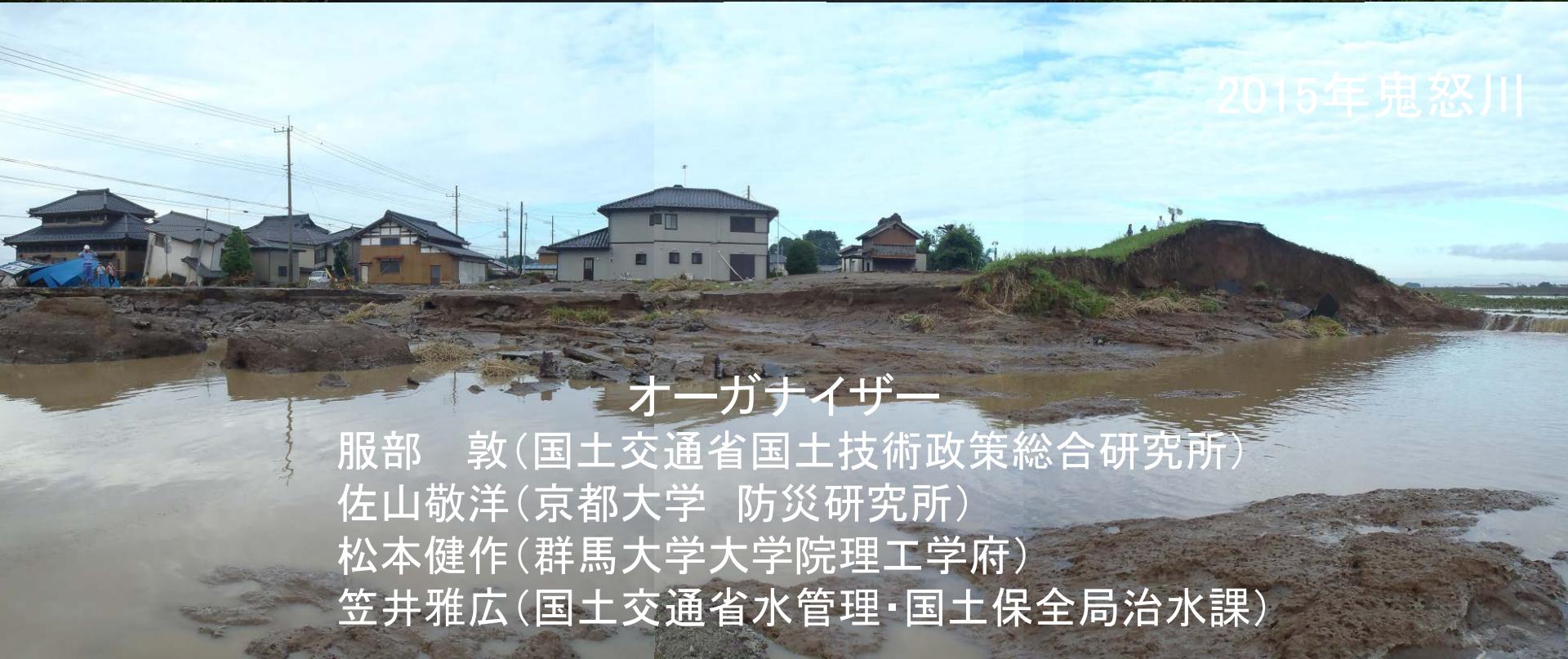




オーガナイズドセッション1(OS1)

平成27年9月関東・東北豪雨

2015年鬼怒川



オーガナイザー

服部 敦(国土交通省国土技術政策総合研究所)

佐山敬洋(京都大学 防災研究所)

松本健作(群馬大学大学院理工学府)

笠井雅広(国土交通省水管理・国土保全局治水課)

OS1の背景と狙い

- 背景
 - 「平成27年9月関東・東北豪雨」
 - 研究者・技術者は、防災・減災に貢献していくとともに、河川技術をより進展させる不斷の努力を積み重ねていくことが今後、強く求められる。
 - ここで、改めて思い出しておきたいのは、これまで盛んに行われてきた大規模水災害に関する議論（河川シンポでも、気候変動や危機管理に関するセッションを複数回にわたり開催してきた）
- 狙い：「議論→具現化へ」
 - 河道内での事象から河川の水位が下がり氾濫が収束した以降の氾濫水の排除や救助も含めて、その全容を俯瞰し実相を理解する
 - 大規模水災害に関する議論を改めて思い起こして、今回の出水・災害の実相に照らし合わせる。
 - これまでの見方・考え方をさらに深め展望する、さらに具体的の研究・技術開発・検討に繋げていく糸口などを参加者の皆さんとともに見いだせるように進めて参りたい。
 - 端緒を得る・きっかけをつかむひとつの機会になれば幸い。

セッションの構成

- 講演の部

①洪水・災害・出水後対応 「全容を俯瞰・実相を理解」

1) 洪水被害及び対応状況等

国交省関東地整 河川調査官 高橋伸輔

2) 中小河川における出水・災害状況【投稿論文のレビュー含む】

群馬大 助教 松本健作

②話題提供・基調講演 「思い起こす」「展望する」

3)「水防災意識社会 再構築ビジョン」

国交省水管理・国土保全局 河川計画課長 塚原浩一

4) 鬼怒川の水害調査にかかわって学んだこと

群馬大 教授 清水義彦 先生

③研究・調査報告 「具体例から糸口などをつかむ」

5) 浸水被害に関する研究・調査報告【投稿論文のレビュー含む】

京都大学 准教授 佐山敬洋

- ディスカッションの部

パネルセッション

「照らし合わせる・糸口などをつかむ」